

## 第7回トラック輸送における取引環境・労働時間改善愛媛県地方協議会 議事概要

### 1. 日時

平成30年3月28日（水） 13：30～15：30

### 2. 場所

愛媛県トラック協会 2階会議室

### 3. 議事概要

(1) 議題1「パイロット事業及び協議会について」、議題2「働き方改革の進捗について」について事務局等より説明を行い、意見交換を行った。

(2) 各委員からは、以下のような発言があった。

- 運送品の価格は、主に市場価格で形成されており、単純に運賃コスト分を上げることができれば、そこで吸収できるが、実感としてそうっていない。厳しい話だが、「どこで運賃コストを吸収しますか？」といわれると、答えが無い課題という気がする。
- パレット化で、ばら積みより積載効率が落ちると、荷主側の負担が重くなるが、これは、業界として取り組んでいく課題でもあるので、どこかで折り合いをつけるしかない。
- 今回のパイロット事業は、パレット化による効率化がテーマだが、荷主側で、積載効率が落ちたり、荷崩れ防止のラップ巻のコスト増を、どこまで徹底してやれるのか、またそれだけ運賃の負担の能力があるのかが、今回のモデル事業で大切な点だと思う。
- 四国から関東方面への運送では、運転時間の規制を守ることが難しく、荷役時間の短縮だけでは解決できない。フェリー等、モーダルシフトを進めていかないと、物が運べなくなってくる。
- 運送の効率化を目指す中で、「4時間走って、30分休み、〇〇日〇〇時に到着」等、厳格に求められすぎると、ドライバーは、自分のペースで運転できず、逆につらい場合もある。実験では、良い部分だけを取り出している印象もあり、現実には、実験で見えていないところも多くある。
- 高速道路代などもらえていない会社もある。

- 業界として、荷役時間、拘束時間を短くして欲しいと要望することになるが、パレット化で3割も積載が落ちる場合、しわ寄せは、だれがどう吸収するのか疑問が残った。
- 労働時間規制、生産性向上の話が先走りして、対策が後追いになっている。例えば、積載効率を上げるため、トレーラ化の話が出る事があるが、普通のトラックドライバーが足りていない中、トレーラを運転可能なドライバーが確保できるのかという問題もある。
- 「働き方改革」で、労働時間削減は、本来、生産性の改善・向上とセットのはずが、労働時間削減の議論ばかりが先行する風潮があり、最終的に消費者に価格転嫁するにしても、なかなか難しいところもある。
- 最終的には、国民の理解というところになる。最終商品の価格に、運送コスト上昇分をしっかりと上乗せして、またそれを国民が理解する形にならないと、これ以上の改善は難しいように思う。
- 運賃について、(パレット化で)積載量を落として、仕事量を減らし、賃金を上げるとなると、末端の消費者が負担するしかなく、すべての物が高くなるのが、最終の形。それで受け入れられないなら、消えていくしかないということだと思う。
- 協議会を、3年間開催してきたが、行政が中心となって新しい形で話ができる場を作っていたいただいた事が、成果でもあり、ありがたいと思っている。
- パイロット事業の内容は、今後に活かしたい。今までに取り組んだ2件のパイロット事業、また、適正化事業で事業者を回る中で、トラック事業者と荷主の取組みにより、改善が図られた事例がある。それを踏まえて、30年度に愛媛として一つの事例集を作成し、各事業者、荷主企業に見てもらおうほか、中央にも上げたいと思っている